

拠出金名：インド洋まぐろ類委員会拠出金

国際機関等名	インド洋まぐろ類委員会 (英文名称・略称) Indian Ocean Tuna Commission (IOTC)					
種別	国連本体	国連専門機関	(その他)			
所轄官庁担当局課名	農林水産省水産庁国際課					
最近3年間の我が国支払額及び拠出率、ODA率						
単位	金額				拠出率(%) (注1)	ODA率(%)
	邦貨 (千円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レート		
平成16年度	27,390	249		1\$ = 110円	(2004年) 100	100
平成15年度	9,958	82		1\$ = 122円	(2003年) 30.6	100
平成14年度	9,958	82		1\$ = 122円	(2002年) 76.6	100
事業(プロジェクト)への拠出						
拠出上位5ヶ国				本委員会の財政 (2004年度決算)(注2)		
	国名	(千ドル)	率(%)	当該年度の収入	1,037,335ドル	
1位	日本	249	100	当該年度の支出	1,321,942ドル	
2位				次年度への繰越	-284,607ドル	
3位				会計検査機関名		
4位						
5位						
上記の率及び順位は2004年のもの				(現在の構成員の出身国:)		
当該機関に対する我が国としての評価(当該国際機関の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)						
<p>IOTCは、インド洋におけるマグロ類の保存管理及び最適利用を目的として設置された国際機関である。最近、当該水域においてはEU等によるマグロ類の漁獲が急増していたが、2005年の年次会合でメバチの漁獲規制の導入が決定されるなど、IOTCの果たす役割はさらに重要となりつつあると評価。</p>						
<p>合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価</p>						
<p>IOTCは新しい機関であり、加盟国の大半が途上国であるため、機能的な強化が大きな課題である。このため、我が国及びEU等が拠出金を提供し、各種の科学調査を実施することにより機能強化が図られている。</p>						
邦人職員数 うち幹部以上	うち	0人 人	当該機関の職員数及び 邦人職員が職員全体に しめる率		14人 0%	
邦人職員が占めている幹部ポスト						
ポストの名称		職員氏名		備考		
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画						

(注1) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年(2002年～2004年)。

(注2) IOTC全体の収支額で代用